

日本農業新聞

エコ農業理解深めて

茨城県が笠間市で研修会

【いばらき】茨城県は17日、笠間市の県農業総合センターで「エコ農業茨城推進研修会」を開いた。環境保全や環境にやさしい営農活動について理解を深め、エコ農業茨城の地域での取り組みを促すのが目的。市町村、JAなどの担当者100人が出席し、環境保全型農業の取り組みなどについて研修した。

宇都宮市の逆面エコ・アグリの中野伸一事務局長は「フクロウと

の共存を目指した環境保

全型農業」の題で発表し

た。構成員全員が、野生

動物が生息できる環境を

保全していくという共通

目的を持ち、化学肥料、

化学合成農薬の節減に取

り組んでいると紹介。

「生産した特別栽培米を

フクロウ米として差別化

して販売している」と背

景や経緯を説明した。

茨城県つくば市の農業

生産法人(株)筑波農場の小

久保貴史代表は「カバー

クロープを活用した米の

ブランド化の取り組み」

について報告した。レン

ゲソウは水田裏作の緑

肥、飼料、蜜源、景観用

として広く利用されてい

ると説明。「稲を作るの

ではなく稲が育つ環境を

つくることを重視し、収

穫高より品質の高いフラ

ンド米作りをしている」

と述べた。

県農産課は環境保全型

農業直接支援対策などを

説明した。